

藝大21 2021年度



TOKYO GEIDAI

第15回 奏楽堂企画学内公募 応募要項

演奏藝術センターでは、学生による自主的な実践の場の提供と、学内の芸術活動のより一層の活性化を目的として、2005年度より「奏楽堂企画学内公募」を実施しています。これは、藝大奏楽堂で上演することを前提とした企画を学内から公募するコンペティションです。

応募企画は「第15回奏楽堂企画選考委員会」にて厳正な審査を行い、その中の最優秀企画一編を翌年3月に藝大奏楽堂で上演いたします。上演にあたっては、**100万円までの経費を大学で負担**します。応募資格は**美術学部、音楽学部、各研究科の所属を問わず**、全ての藝大生に開かれています。

演奏藝術センターによるサポートのもと、在学中に皆さんの企画を実現できるまたとないチャンスですので、ふるってご応募ください。

2021年5月

演奏藝術センター長 河野 文昭

応募締め切り

2021年10月6日(水) 17時

問い合わせ

演奏藝術センター

050-5525-2465 (内線6150)

■ 応募資格

東京藝術大学（学部・大学院）に在籍するすべての学生。
二人以上のグループでの応募も認めるが、主たる企画者は全員在校生であること。

■ 募集ジャンル

音楽、演劇、パフォーミングアーツ等ジャンルは問わない。
ただし藝大奏楽堂で上演することを前提に、ホールの特性を踏まえた企画とすること。
藝大ならではのあるいは藝大でなければ実現できない、従来の枠に捉われない斬新な発想を期待する。

【参考】藝大奏楽堂について

https://www.geidai.ac.jp/department/center/performing_arts_center

■ 予算

100 万円を上限とし、この中には次のものを含む。

- ・ 出演料ほか上演にかかる経費
- ・ チラシ、プログラム等制作費
- ・ 奏楽堂専属の音響・照明等の舞台スタッフ【(株)シグマコミュニケーションズ】の増員分・照明プラン料等に関わる経費（採択時に応相談）

注)

- ① 藝大生の出演者・スタッフへの謝金、ケータリング費の支払いは認められない。
- ② 奏楽堂のホール使用料、会場整理要員の経費は大学が負担する。
- ③ 万が一、赤字が生じた場合は自己負担となるので注意すること。

■ 応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入し、原本を**演奏藝術センター教員室（音楽学部内4号館212号室）に直接提出**のこと。なお上野校地以外の学生や、オンライン授業で出校の予定がない学生については、郵送での提出も可能。

宛先：〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8 東京藝術大学 音楽学部構内

宛名：演奏藝術センター 行

※封筒の左端に朱で「奏楽堂企画学内公募企画書在中」と明記のこと。

■ 応募締め切り

2021年10月6日（水） 17時

※直接提出、郵送いずれも期限厳守のこと。

締め切りを過ぎた企画書は、理由の如何を問わず一切受け付けない。時間に余裕を持って提出すること。

■ 審査ならびに発表

書類審査、企画者との面談による聞き取り、最終選考会議を経て決定する。
最終結果は**11月中旬**までに通知する。

■ 選考委員長

河野 文昭（演奏藝術センター長）

■ 選考委員（五十音順）

植村 幸生（音楽学部楽理科）

小鍛冶 邦隆（音楽学部作曲科）

後藤 英（音楽学部音楽環境創造科）

古川 聖（美術学部先端芸術表現科）

山崎 宣由（美術学部デザイン科）

吉田 浩之（音楽学部声楽科）

■ 審査基準

- ① 斬新でオリジナルな企画であること
- ② 藝大奏楽堂で上演が可能であること
- ③ 主要な出演者およびスタッフは可能な限り在校生とすること

■ 藝大奏楽堂における上演

最優秀に選ばれた企画は、企画学生、選考委員、演奏藝術センター教員、その他主要関係者との討議によるブラッシュアップを経て**2022年3月29日（火）**に上演する。

なお、本番前日に藝大奏楽堂でのリハーサルが可能。

それ以外の練習は学内ホール・練習室等を調整の上、使用する。

■ 上演の際の協賛・協力について

企画者が予算の補助のため、外部より協賛・協力を受けることは可能であるが、事前に下記担当教員に相談すること。

■ 問い合わせ先

演奏藝術センター 050-5525-2465（内線6150）

楠田健太（演奏藝術センター 准教授）

kusuda.kenta@ms.geidai.ac.jp

応募に当たっての注意事項

(1) 実現可能性を十分に吟味すること

企画決定後、実施段階で「あれもやりたい、これもやりたい」とどんどんイメージがふくらんで、收拾がつかなくなるケースが見受けられます。自由に発想することは大切ですが、結果について見通しを持っていることが必要です。日程的にも予算的にも、無理のない計画を心がけてください。

(2) 出演者、スタッフは出来るだけ学内関係者で集めること

照明、大道具、舞台監督など専門性の高い仕事を外部に委託するのはやむを得ませんが、出演者、特に演奏者はよほど特殊な楽器でなければ、基本的には学内で調達できるはずです。出来るだけ外部に頼らず、学内関係者で集めてください。特に規模が大きくなる場合は、企画提出以前に主要メンバーに打診するなど、ある程度、出演者のあたりをつけておくこと。

(3) 企画が選ばれたらなるべく早く準備をスタートさせること

時間はあっという間に過ぎます。例年、本番間際になってバタバタするケースが多いので、迅速に準備作業を進める必要があります。ただし、進行状況は随時演奏藝術センターに報告し、センター教員とよく相談しながら進めること。特に外部スタッフとの意思疎通が不十分なため、本番時に望んだ成果が得られないケースが間々見られます。

(4) 疑問点があれば相談すること

企画検討段階、あるいは企画決定後に関わらず、疑問点があればいつでも相談に乗ります。判断に迷う場合は、遠慮なく演奏藝術センターに連絡してください。特に金銭の支払いが生じる場合は、必ず事前に連絡を入れること。学生の立て替え払いは原則として認められないので、事前に連絡がない場合、学校から支払うことが出来ず、自己負担になるケースもあります。また事前連絡の有無にかかわらず、藝大生の出演者・スタッフへの謝礼、ケータリング費の支払いは認められないので注意すること。

(5) 過去の「奏楽堂企画学内公募」公演について

これまでの本公募による公演は、学内LANから藝大ミュージックアーカイブ (<http://arcmusic.geidai.ac.jp/>) にて視聴することができます。応募にあたって、ぜひ参考にしてください。

演奏藝術センター